

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月15日

事業所:放課後等デイスターキッズかみはら/スターキッズかみはら2組 職員11名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7名	2名	1名	・密にならない様、工夫している。 ・学習や個別対応できる部屋、リラク্সルーム プレイルーム等分けて支援出来ている。	・課題学習の際、静かな空間が必要な為、活動を分けて行う必要あり。 ・不穏になったり、大声を出してしまう子がいると、響いて全体的に騒がしくなってしまう。
	2	職員の配置数は適切である	10名			・各部屋に必ず職員がいる。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9名	1名		・気になる場所をすぐに改善している。	・トイレ(手摺り)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7名	3名		・常に振り返り改善に取り組み、職員間で連携している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6名	4名			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2名	7名	1名		・ホームページ等の作成
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3名	7名			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8名	2名		・研修の実施	・事務所内研修や外部での研修は、後日職員へ伝達している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9名	1名		・モニタリングの実施	・児童発達管理責任者にて実施
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7名	3名			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8名	2名		・書類を作成し、ミーティングにて連携。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8名	2名			・SSTを取り入れた活動が減っている。 ・少しずつ改善に向けて取り組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8名	2名			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	10名			・常に意識して計画している。 ・個別活動が出来るよう、スペースを確保している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10名			・事前にミーティングにて細かい確認、準備をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8名	2名		・送迎が遅くなった時は、翌日の朝に支援の振り返りを行っている。	・記録をとっているが、振り返りを全体で共有が出来ていない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10名			・きちんと時間をかけて、連携している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9名	1名			・職員全体にて実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7名	3名			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8名	2名			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8名	2名		・常に学校との連携をとっており、職員間でも共有が、出来ている。	・家族や学校と連携しています。 ・下校時間の変更などの確認が、もう少し必要だと感じる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4名	5名	1名		・Drからの注意点、服薬やおやつの対応、体調面の観察を保護者連携し、注意して対応している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6名	4名			・全体で共有されていないと感じる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5名	4名	1名		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名	5名			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2名	2名	4名		・コロナ禍の為、出来ていないが外活動で、一般の児童と交流は見られる。 ・他デイとの交流の機会がない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1名	8名	1名		・協議会への参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10名				・送迎時やモニタリング会議、電話にて家族の不安等に対応連携できるように進めています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2名	7名	1名		・保護者様と話をし、デイでの支援で、上手くサポートできた面を共有しています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9名	1名			・契約時に細かい説明 問い合わせには、直接出向き説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9名	1名			・日々の送迎にて、相談に対応したり、電話でも応じています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1名	7名	2名		・コロナ禍の為、保護者会ができていない。 ・新型コロナ予防策として、保護者会は実施できていません。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10名				・子供からの目線も大切にしています。 保護者と密に連携し対応、改善に努力しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8名	2名			・月カレンダー お便りを発信し内容を説明している。
	35	個人情報に十分注意している	10名				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10名				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2名	6名	2名		・コロナ禍の為、出来ていない。 ・クリスマス会などイベント近隣店舗との交流。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10名				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10名				・計画から実施、実施後の気付いた点など、書類でも配布しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名	3名			・研修を実施し日々意識し取り組んでいます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5名	4名	1名	・該当者なし	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7名	3名		・契約する際にアセスメント表に記載し把握している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名	3名			・職員間で、話し合いができています。